

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400017		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム 中野		
所在地	千葉県若葉区中野町66-5		
自己評価作成日	平成28年2月3日	評価結果市町村受理日	平成28年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成28年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく暖かく家庭的な雰囲気を大切にしています。
利用者様のお誕生日に皆さんでお祝いしたり、お花見には手作り弁当で職員と一緒に食事をしたり、花火大会、季節行事など、外出支援も行っています。
経済的に困難な方を低料金で受け入れている実績があり、市役所や地域の方からも相談を多くお受けしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『のんびり、ゆっくり、家庭的』をモットーに、施設長のリーダーシップの下、利用者の思いを大切に、穏やかに過ごせるよう、家庭的で、温かみのあるケアに努めている。入浴を希望しながら、体が不自由のため入浴できなかった利用者に対し、職員が水着になり、介助することで、入浴を可能にした。今年から誕生日には、各利用者が希望するものをプレゼントしている。こうした職員の利用者の思いに応えた対応は、利用者や家族に高い満足感を与え、家族アンケートでも、評価されている。地域との関係も良好で、利用者は地域の行事に参加し、ホームの防災訓練には地元の方も参加され、協力体制が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	有限会社 リナ 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		玄関等での掲示に加えて、毎月の全体会議等で施設長が理念について、繰り返し話をし、共有できるようにしている。職員は利用者が安心して暮らせるよう、利用者に寄り添った支援を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々と散歩しながら、会話などをして交流しています。	職員も地元の方が多く、地域との関係は良好である。自治会にも加入しており、地域の敬老会、花火大会などにも参加している。防災訓練の際には、地域の方も参加している。日本舞踊、フラダンスなどの地域のボランティアの訪問もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人や民生委員の方に対して、運営委員会での情報を積極的に提供し認知症の理解が得られるよう努めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会役員と顔見知りになり、敬老会にも参加しています。	2ヶ月毎に利用者、家族、地域代表、安心ケアセンター職員等が参加して開催している。会議では、ホームの運営状況、行事、研修内容等の報告の後、意見交換が行われる。その中で地域行事への招待、感染症の話しなどもある。	会議は2ヵ月毎に開催されているが、ホームからの報告が中心となっているので、時にはテーマを決めて意見交換を行い、それらを運営に活かす取り組みを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の受け入れがあり、市と連絡を多く取り合っています。	市の担当者とは、利用者の各種手続き等で密接に連絡をとりあっている。市の研修会、グループホーム連絡会にも必ず出席している。必要な時にはいつでも相談できる関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、社内研修を通じて、マニュアルをもとにした身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束しない旨を玄関に掲示し、拘束ゼロの支援に取り組んでいる。市の身体拘束廃止研修へ参加した職員が全体会議等で伝達研修し、徹底している。言葉による抑制にも注意している。玄関は施錠せず、見守りで対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例などをもとに話し合いをし、自らの介護を振り返る機会を作り、防止に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には、制度を理解するための研修等を利用するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすく平易な言葉を使い、理解していただけているか確認をしながら話を進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族との関係を大切にし、何でも話しやすい雰囲気心を掛けています。ケアプラン送付時にも毎回アンケート用紙を同封し、ご意見を伺うようにしています。	家族の訪問時に、利用者の状況を報告し、確認している。訪問のない家族に対しても、毎月、写真を入れて、状況を報告している。利用者の意見、要望も確認し、しっかり受け止め、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、各職員に気を配り、必要時には意見を聞く機会を設けています。	全体会議を職員の集まりやすい利用者の昼食後や、時には職員皆で昼食を食べる機会を設け、意見を聞いている。職員が意見を言いやすい雰囲気作りを心がけ、出された意見は、その都度検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人に希望を聞き、できる限り反映できるようにしています。話し合いや研修などで、向上心を持って働ける環境となるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量に合った研修を受けられるよう、管理者、職員に積極的な研修参加を促しています。研修後に職員を集めて勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「認知症の会」に出席し、他施設の取り組みなどを勉強し、理解を深めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちをくみ、安心して話をしていたできるように、丁寧な聞き取りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族関係や生活背景なども含め、ご家族の心配事や困りごとを安心して話していただけるよう、親身になって対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の希望を丁寧にお聞きし、ご本人の状態や希望に合った支援が受けられるよう検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人との信頼関係を大切にし、お互いに尊重し合える関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連携をとり、ご家族の意向を大切にして、ご本人との関係が作れるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人との交流が保てるよう、連絡を取り合っています。	お孫さんや親戚の方、親しくしていた故郷の友人が来訪されるなど、明るく開放的な雰囲気づくりに努めている。家族には毎月その方の様子を手紙と写真で知らせ、納涼祭等に来訪してもらえるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を見守り、お互いに気持ちよく過ごせるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族の方に、運営委員会に出席していただき、交流をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本心を安心して話していただけるように、信頼関係を大切にしています。	日々の会話の中から、一人ひとり「何がしたいか、どんな話をするときに楽しそうか」、職員は利用者の思いや意向を把握している。伝えることが困難な方には、表情や仕草で気づき、楽しく、安心して生活出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人だけでなく、家族等からもお話を伺い、これまでの生活や馴染みの暮らし方を把握できるよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活の様子や体調変化の有無など、各介護職員が把握し、情報共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでご本人の状態を確認し、現状に合ったケアプランを検討しています。必要に応じて、本人・関係者の意見等を取り入れたプランに変更しています。	日々の介護記録を基に担当者会議、モニタリングの結果を経て、家族、関係者とも話し合い介護計画を作成している。「できることは自分で」の目標を持って、利用者ひとり一人の現状に即した計画が立てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録しています。情報共有のための申し送りをしています。必要に応じて計画変更につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・家族のニーズがあった際は、できる限り柔軟に対応するようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の敬老会に出席しています。市の福祉バスを利用したバス旅行も計画しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である、あおばクリニックの受診支援をしています。	かかりつけ医受診は、職員が同行支援し、家族に報告し共有している。協力医の訪問診療・看護師の訪問が有り、月2回受診している方も有る。緊急時は主治医との連携で協力病院に救急搬送を行っている。訪問歯科による治療と口腔ケアの指導が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日血圧測定を実施しています。顔色やお体の動きなどの状態観察をし、体調変化の把握ができるようにしています。必要時には受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	徳洲会病院のケースワーカーさんとの関係を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族等と連絡を密にとっています。	終末期、重度化した場合は本人・家族・主治医、関係者と話し合い、方針、意志の共有化を図り方向性を同じに取り組んでいる。最後をホームで過ごしたいと望まれた方には、家族と協力して、笑顔の有る、穏やかな看取り介護を経験している。ご家族からも「母は幸せだった」と感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを使い、勉強会を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と協力し実施しています。消防訓練は定期的に行っています。	消防署の指導を受けながら事業所独自の火災・地震、夜間想定避難訓練をしている。夜間職員2名体制での実際の動きを体験し、利用者を避難させている。近隣の方も参加し利用者と顔見知りになり、協力体制が構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重し、ご本人の立場に立った言葉かけができるように心がけています。	一人ひとりの人格を尊重し常に優しい言葉かけを心掛けている。個性を大切に手を出し過ぎない介助をし、役割を持つことで誇りや自立度が保たれている。お酒やたばこも時には楽しみ、職員とのコミュニケーションは良好である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外出等、希望を聞き、自己決定できるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活スケジュールは決まっていますが、無理強いせず、ご本人のリズムで生活していただくよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを聞きながら、その人らしい装いができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使った手作りの食事を提供しています。動ける方には、片付け等を一緒に行っていただいています。	地元の農家から野菜が届き、旬の食材を使った手作りの食事が調理員により提供されている。目で楽しみ、味で楽しみ、匂いで楽しめるおいしい食事は、全員で一つのテーブルを囲み家庭的な和やかな食事風景が見られる。口腔ケアは指導を受け実行している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の観察を行っています。必要に応じて摂取の促しや捕食の提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に合わせ、歯磨き・口腔洗浄剤を用いたうがいを食後に行っています。必要な方には訪問歯科診療を受けていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態に合わせ、見守り・声掛け・一部介助等、排泄の自立に向けた支援をしています。	利用者ごとの排泄パターン、習慣を記録し特徴や傾向を把握して声掛けはさりげなく、適切なトイレ誘導をしている。清潔保持に常に心掛け、排泄後は洗浄を行い、感染症予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、散歩などの運動の機会を作っています。排便確認を行い、排便状態の把握に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂好きな人には、ゆっくり入っていただいています。	午前中はいつもお風呂が沸いていて、その日の身体状況や利用者の気分に合わせてゆっくり入浴できている。職員の提案で体の不自由な方を水着で介助し、湯船に入ることができ喜ばれている。シャワーキャリーも効果的に利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思で気持ちよく過ごされるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の薬は医師に状態を相談し、処方していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく希望に沿うように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って戸外に出かけたり、スタッフと一緒にいちご狩りや外食、花火大会などに出かけるようにしています。	自動販売機の買い物が日課の方や、季節のお花見やイチゴ狩り、花火大会など車を使い全員での外出を楽しんでいる。玄関は施錠していない為、門を出る利用者を見かけると職員は少し後ろを歩き、散歩を見守っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難になりつつある方には、職員が手助けをし、金銭を所持し、管理できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次いだりして、家族等との関わりが保てるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りをし、季節の移り変わりを感じられるように留意しています。共用部分の照明や温度も随時調整し、過ごしやすい環境となるよう気を付けています。	リビングは季節ごとの行事や外出時の笑顔の写真が壁いっぱい貼られている。趣味の塗り絵をする人、職員や利用者同志でしゃべりをする人など、リビングの大きなテーブルは居心地良い場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングでは席順を決め、ご本人の居場所が明確になっています。そのほかに共用のソファがあり、自由にくつろげるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、できるだけご本人の馴染みのものを使うようにしています。希望に応じ、写真や季節の壁掛などを飾ったりしています。	清潔な落ち着いた居室が用意されている。自室の入り口には本人の写真が張られ部屋が解るような工夫がされている。整理ダンスには中身が分かるように職員の手製のカードが張られ喜ばれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室には、札を掲示し、場所がわかりやすいよう工夫しています。困った様子の方には、必要に応じ声掛けや誘導を行っています。		